

Active Backup 1.4 Guide

Active Open Communications K.K

目次

| | |
|----------------------|----|
| 目次 | 2 |
| 著作権について | 3 |
| ソフトウェア使用許諾契約書 | 4 |
| はじめに | 5 |
| 稼働環境 | 5 |
| パッケージ内容 | 5 |
| 特徴 | 6 |
| 使用中のご注意 | 6 |
| インストール方法 | 7 |
| アンインストール方法 | 8 |
| ユーザ登録 | 9 |
| メニュー | 10 |
| パーティションのすすめ | 12 |
| データのプライオリティ | 14 |
| バックアップは最低2つ | 14 |
| システム起動ボリュームのスナップショット | 15 |
| ファイル単位かパーティション単位か | 15 |
| 使用方法 | 16 |
| ディスクイメージファイル | 23 |
| ディスクイメージファイルのマウント | 24 |
| ディスクイメージファイルのアクセス権 | 25 |
| システム起動ボリュームのスリム化 | 26 |
| 付録 – 便利なユーティリティ紹介 | 27 |
| 今後のバージョンアップ予定項目 | 28 |
| サポート窓口 | 28 |
| リリースノート | 29 |

最新情報やライセンスキー購入方法は <http://www.activeopen.co.jp> をご覧下さい。

Active Backup 1.4 Guide 2006 年 11 月 26 日

著作権について

このマニュアル及びマニュアルで解説するソフトウェアの著作権は、株式会社アクティヴオープンコミュニケーションズが全て保有しています。

著作権法により、ソフトウェア使用許諾契約書に記述された場合を除き、当社の書面もしくは電子メールによる許可無しに、いかなる形式（電子的・磁氣的・写真・録音・その他）にせよ、このマニュアル及びソフトウェアの全部または一部を複製・蓄積・送信することを禁じます。

複製が許可されている場合、オリジナルに添付されている所有権と著作権と同じ文書を複製物に添付しなければなりません。他の全ての登録商標は、それぞれの所有者の所有物です。

Mac OS X 10.1-10.3 用 Active Backup は Metrowerks 社の CodeWarrior 9.6 で開発されています。Mac OS X 10.4 用 Active Backup は Apple 社の Xcode 2.4.1 で開発されています。

Copyright (c) 2004-2006 Active Open Communications K.K. All rights reserved.

ソフトウェア使用許諾契約書

定義

本契約において次の用語は次の定義を有するものとします。

- ・ 「弊社」とは株式会社アクティヴオープンコミュニケーションズをいいます。
- ・ 「使用者」とは本パッケージを取得し使用する個人又は事業体をいいます。
- ・ 「パッケージ」とは、ソフトウェア、マニュアルおよびその他本契約に添付される品目をいいます。

許可される使用

弊社は下記に定める条項に従って、本パッケージのソフトウェアを使用する、譲渡不能の非独占的使用権を使用者に許可します。

- ・ 使用者は、一度に一台のコンピュータで本パッケージのソフトウェアを使用することができます。
- ・ バックアップ用として、ソフトウェアの複写を一部作成することができます。この複製物は自動的に弊社の所有権に帰属し、本契約に従うものとします。

禁止される行為

使用者が次の事項をなすことは禁止されています。

- ・ 使用者が一台のコンピュータで個人的に使用する場合を除き、ソフトウェアを改変し、またはそれを他のプログラムと併合すること。ソフトウェアの改変、併合された部分は本契約に従うものとします。
- ・ 弊社の書面による同意なしに、ソフトウェアに関する二次的開発物を翻訳、または作成すること。
- ・ ソフトウェアの著作権、特許権その他所有権の表示を取り外し、または判読不明にしたり変更したりすること。
- ・ ソフトウェアのリバース・エンジニアリング、ディスアSEMBル、デコンパイル等をなし、ソフトウェアのソース・コードを解明しようとする。
- ・ ソフトウェアの再使用許諾、販売、貸し出し（賃貸を含む）をすること。もし、使用者が本契約に違反した場合には、自動的に使用権許諾は無効となり、使用者は本パッケージに含まれるソフトウェア、マニュアルその他を弊社に返還するか破棄しなければなりません。
- ・ 使用者がライセンスキーをインターネット等に公開すること。

限定保証

弊社は、弊社が納得した時点において、ソフトウェアが最新のものであり、弊社の設定した仕様に一致していることを保証します。弊社は、ソフトウェアにバグ、エラー、および脱落がないことを保証しません。もし、ソフトウェアが上記の保証に一致しなかった場合には、弊社はディスク交換やアップデートを含む合理的な努力を尽くします。弊社は、本パッケージの使用に伴う、直接、間接の損失に関して何らの責任を負いません。コンピュータ・プログラムまたはデータの復旧、回復に要する費用を含めて、弊社の製品に記憶され使用されたコンピュータ・プログラムにつき、一切の責任を負いません。

APPLE COMPUTER, INC. ("APPLE") MAKES NO WARRANTIES, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING WITHOUT LIMITATION THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE, REGARDING THE APPLE SOFTWARE. APPLE DOES NOT WARRANT, GUARANTEE OR MAKE ANY REPRESENTATIONS REGARDING THE USE OR THE RESULT OF THE USE OF THE APPLE SOFTWARE IN TERMS OF ITS CORRECTNESS, ACCURACY, RELIABILITY, CURRENTNESS OR OTHERWISE. THE ENTIRE RISK AS TO THE RESULTS AND PERFORMANCE OF THE APPLE SOFTWARE IS ASSUMED BY YOU. THE EXCLUSION OF IMPLIED WARRANTIES IS NOT PERMITTED BY SOME STATES. THE ABOVE LIMITATIONS MAY NOT APPLY TO YOU.

IN NO EVENT WILL APPLE, ITS DIRECTORS, OFFICERS, EMPLOYEES OR AGENTS BE LIABLE TO YOU FOR ANY CONSEQUENTIAL, INCIDENTAL OR INDIRECT DAMAGES (INCLUDING DAMAGES FOR LOSS OF BUSINESS PROFITS, BUSINESS INTERRUPTION, LOSS OF BUSINESS INFORMATION, AND THE LIKE) ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE APPLE SOFTWARE EVEN IF APPLE HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES. BECAUSE SOME STATES DO NOT ALLOW THE EXCLUSION OR LIMITATION OF LIABILITY FOR CONSEQUENTIAL OR INCIDENTAL DAMAGES, THE ABOVE LIMITATIONS MAY NOT APPLY TO YOU.

はじめに

この度は Active Backup をお買い上げ（もしくはデモ版を試用して）いただき、誠にありがとうございます。Active Backup は、ハードディスクのパーティションバックアップ・リストア用ユーティリティです。ハードディスクパーティションをディスクイメージファイルにしてバックアップしたり、ファイルからパーティションにリストアすることができます。

Active Backup OEM 版（カスタマイズ、サイトライセンス、貴社の商品へのバンドル等）も承っております。詳細は activeopen@mac.com 山田宛に電子メールでお問い合わせ下さい。

稼働環境

Active Backup を使用するためには、以下の環境が必要です。

- ・ 128 メガバイト以上のメモリを搭載した Power Macintosh
- ・ Mac OS X 10.1.5-10.4.8 のシステムソフトウェア
- ・ CD-R / CD-RW / DVD-R / DVD-RW / DVD+R / DVD+RW / DVD-RAM / MO ドライブ / ハードディスク等の周辺機器

パッケージ内容

| | | |
|---------|------------------------------------|--------------------|
| ファイル名 | ActiveBackup.dmg | (Disk Copy イメージ) |
| パッケージ内容 | Active Backup Active Backup.pdf | (プログラム) (マニュアル) |

特徴

- ・ マルチタスク (マルチスレッド) で複数のハードディスクパーティション・ディスクイメージファイルを高速にバックアップ・リストアできます
- ・ ディスクイメージファイルを各種ユーティリティでマウントできます
- ・ ケアレスミスでデータが消失しないように設計されています
- ・ 日本語・英語のバイリンガルサポートです
- ・ シンプルイズベスト！ 誰でも簡単に使いこなせるソフトです

使用中のご注意

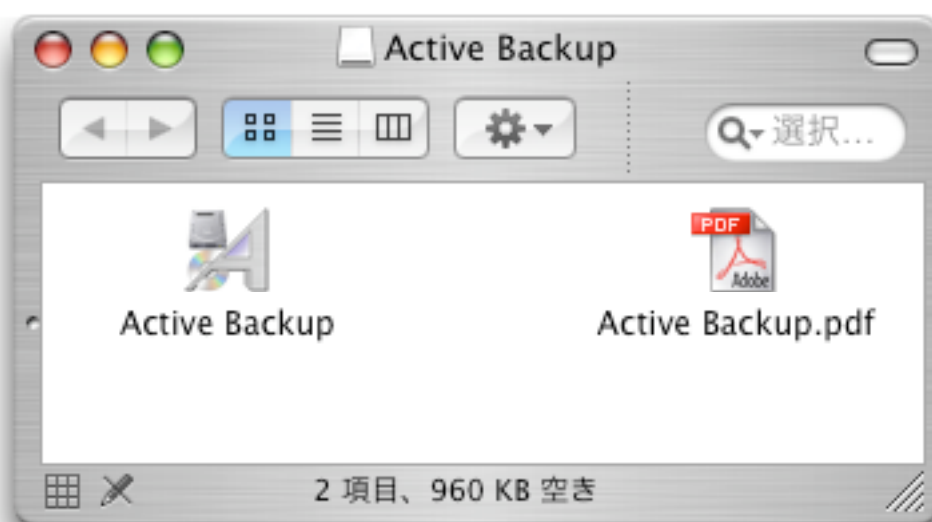
- ・ 大切なデータは必ず保存してください。お客様が操作を誤ったり本製品に異常が発生した場合、データが消失することがあります。
- ・ 本製品の不具合による損害、文書やデータの消失による損害、その他本製品の使用により生じた損害については当社では一切その責任を負えませんのであらかじめご了承ください。
- ・ 本書の一部または全部を無断転載することを禁止します。
- ・ このソフトウェアは著作権法及び国際条約により保護されています。

インストール方法

アーカイブファイルは、「ディスクユーティリティ」の圧縮されたディスクイメージフォーマットで配付されています。



上記のファイルをダブルクリックすると、以下のウィンドウが表示されます。



実行プログラムの Active Backup とマニュアルの Active Backup.pdf を、お使いのハードディスクにコピーして下さい。

(Mac OS X 10.4 以降用のユニバーサルバイナリ版と Mac OS X 10.1.5 – 10.3.9 用がありますので、適切な方をコピーして下さい)

Active Backup は、ハードディスクのパーティションを読み書きするために、管理者特権を必要とします。Active Backup を初めて起動した時に、認証ダイアログが表示されますので、管理者の名前とパスワードを入力して下さい。



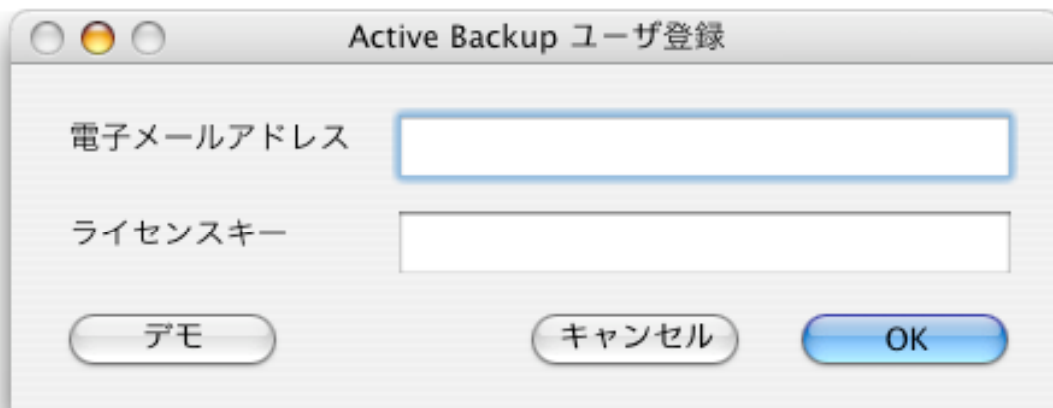
アンインストール方法

Active Backup、ホームディレクトリ : ライブラリ : Preferences フォルダ内にある Active Backup Prefs ファイルと jp.co.activeopen.ActiveBackup.plist (存在していた場合) を削除して下さい。



ユーザ登録

Active Backup を初めて起動した時に、ユーザ登録ダイアログが表示されます。電子メールアドレスとライセンスキーを入力後、OK ボタンをクリックして下さい。



電子メールアドレス

電子メールアドレスを半角で入力します。

ライセンスキー

ライセンスキーを半角で入力します。ライセンスキーは大切に保管して下さい。

デモ

デモモードで起動します。デモの制限事項は以下の通りです。

- ・ バックアップのみでリストアはできません（転送先にハードディスクボリュームを指定できませんが、イメージファイルは作成可能です）
- ・ 転送元ボリュームがアンマウントできない場合、「使用領域のみ転送」オプションは使用できません。

メニュー

Active Backup メニュー



「Active Backup について...」

「Active Backup を隠す」

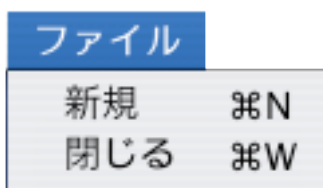
「Active Backup を終了」

アバウト画面を表示します。

全てのダイアログを隠します。

アプリケーションを終了します。

ファイルメニュー



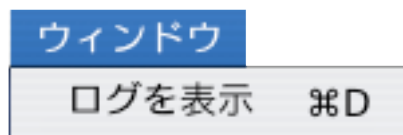
「新規」

「閉じる」

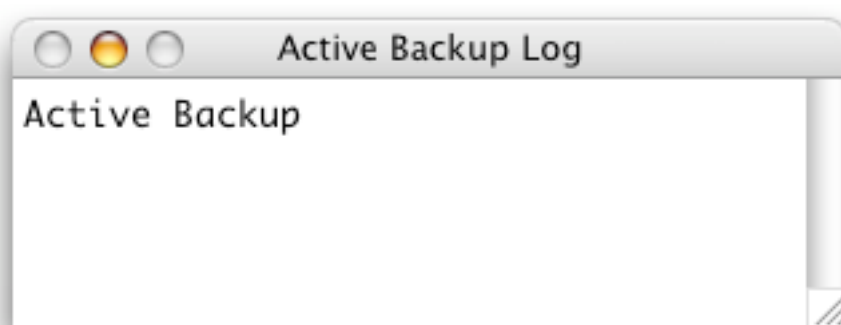
ダイアログを新規作成します。

ダイアログを閉じます。

ウィンドウメニュー



「ログを表示」



警告／エラーログ等を表示します。

もし Active Backup で問題があった場合は、このログウィンドウに何かしらの情報が表示されているはずです。その情報をコピーして、電子メールで activeopen@mac.com 山田宛に送付願います。

パーティションのすすめ

皆さんは、ハードディスクのパーティションを切っていますか？

現在の私の開発環境は、PowerMac G4 1.25Ghz * 2 CPU / 2GB メモリで、120GB HD * 2 と 60GB HD * 1 を搭載しています。120GB 1 台をマスターハードディスクとして使い、もう 1 台の 120GB はバックアップ用です。60GB はテンポラリ用で、いつでも初期化して使えるようにしています。

120GB マスターハードディスクのパーティション

| | | |
|--------|-----------|-------------|
| MacHD | パーティション 1 | 4.5GB |
| MacHD2 | パーティション 2 | 4.5GB |
| MacHD3 | パーティション 3 | 4.5GB |
| MacHD4 | パーティション 4 | 4.5GB |
| MacHD5 | パーティション 5 | 26.4GB |
| MacTHD | パーティション 6 | 71.2GB (残り) |
| MacXHD | (2 台目) | 120GB |
| MacYHD | (3 台目) | 60GB |

パーティション 1 から 4 までの 4.5GB というサイズは、PowerMac G4 標準搭載の DVD-R (DVD-RW) へのバックアップ・リストアを考慮したサイズです。

MacHD には Mac OS 9 と必須のアプリケーションと書類が入っています。大切なパーソナルデータはここに保存されます。

MacHD2 はアプリケーション用です。必須ではないが常用するアプリケーションを入れています。

MacHD3 は Mac OS X システム用です。

MacHD4 はテンポラリ用です。新 Mac OS X のテスト等に使用します。

MacTHD もテンポラリ用です。DVD イメージ等の巨大ファイルを保存しておく場所として使用します。

MacHD5 と MacTHD を何故1つにしなかったのか不思議に思われるでしょうが、MacHD – MacHD5 を PowerBook G3 に搭載している 60GB ハードディスクにデータ転送するためです。私のデスクトップ用ハードディスクのパーティションはそのままモバイルでも使えるようになっているわけです。

パーティション1 から4までの 4.5GB は、Mac OS X を考慮するともう少し大きいパーティションサイズにしたいところです。理由は、現在の Mac OS X の /var/vm のスワップファイルは起動ボリュームのみのサポートで、違うボリュームを指定できないため、メモリが少ない機種だとつらくなるからです。

しかし、サードパーティの巨大アプリケーションを他のボリュームに移動しておけば、Developer Tools をインストールしても 600MB 以上の空き容量は得られています。必要なら Developer Tools も MacHD2 に移動し、シンボリックリンクで対応すれば起動ボリュームの空き容量を増やせます。

メモリを安価な時に購入してフル搭載にしておけば、スワップファイルの問題はなくなります。スワップが起こると実行スピードもかなり落ちますので、スワップのお世話にならない方が快適なオペレーションが得られます。

メモリが十分かどうかを確認するには、よく使うアプリケーションを起動し、ターミナルコマンドで top コマンドを起動して、6 ライン目の

```
VM: 4.25G + 3.62M 8955(8955) pageins, 0(0) pageouts
```

を確認して下さい。pageouts の数かなり多い場合、スワップアウト（ページアウト）が起こり、パフォーマンスが落ちていることになります。0(0)か、少ない値ならメモリは十分と判断できます。

DVD メディアにバックアップする場合は、「システム起動ボリュームのスリム化」の章をお読み下さい。DVD メディアへのバックアップを考慮せず、バックアップ用のハードディスクにディスクイメージファイルとして保存するなら 4.5GB のサイズにこだわる必要はありません。皆さんが必要なパーティションサイズを使って下さい。

データのプライオリティ

自分が作成したデータが失われた時のショックは、皆さんも多かれ少なかれ経験されたことがあるでしょう。データのプライオリティを考えて下さい。市販のソフトウェアをハードディスクのクラッシュで失っても CD-ROM 等のマスターから再度インストールすれば良いでしょう。時間さえあれば復旧できます。

自分の作成したデータを再度作り直すのは、かなり手間がかかります。同じことを何度も繰り返すことほど疲れることはありません。ハードディスクのパーティション数はデータのプライオリティに応じて用意します。

私の場合は、MacHD に Mac OS 9 環境とソースコードを、MacHD2 は市販のソフトウェアを保存します。MacHD3 は Mac OS X をインストールしています。大切なパーソナルデータは MacHD2 / MacHD3 ではなく、MacHD に集中させます。MacHD2 と MacHD3 は自分のデータではないので年中アップデートすることもなくなり、MacHD のみバックアップすればよくなります。

バックアップは最低2つ

バックアップは最低二つ用意しましょう。理由は、コピー中に停電になったりマスターに読めないセクターがあると、マスター・バックアップ両方のデータを失うことがあるからです。

バックアップを「ディスクユーティリティ」などで暗号化して遠方の友人に預かってもらえば、地震などで壊滅的な状況になっても大切なデータを失うことはありません。

システム起動ボリュームのスナップショット

Mac OS X もファーストリリース時はいろいろとトラブルを抱えていました。自分のソフトが悪いのか、OS が悪いのか、使っている最中にプリファレンス等を壊しておかしいのか判断するのは大変です。

このような状況で活躍するのは、起動ボリュームのスナップショットです。Active Backup で Mac OS X をインストール後のパーティションデータをディスクイメージファイルにしてバックアップしておけば、Mac OS X の新規インストールに 20-60 分もかける必要はありません。

違うパーティションに起動ボリュームのディスクイメージファイルをリストアしてチェックすればいいわけです。

私の環境では、4.5GB の OS ディスクイメージのリストアにかかる時間は約 2 分半で、OS インストールの 10-20 倍早くセットアップができます。OS インストール後のシステム環境設定の変更や、他のソフトウェアのセットアップが必要なので、実際に必要な時間はより長くなります。

ファイル単位かパーティション単位か

テープドライブなどへのバックアップは大抵ファイル単位でバックアップするのが普通ですが、ファイル数が多くなるとコピーがどんどん遅くなっていきます。パーティション単位の場合、シーケンシャルなリードライトなので、更新ファイルが多ければ多いほど有利になります。

また、ファイル単位のバックアップはファイルのタイムスタンプが重要で、しっかり時間が管理されていないとバックアップ対象とならずに問題を起こします。Mac OS X ボリュームの場合はパーミッションの問題もあり、パーティションバックアップが理想的です。

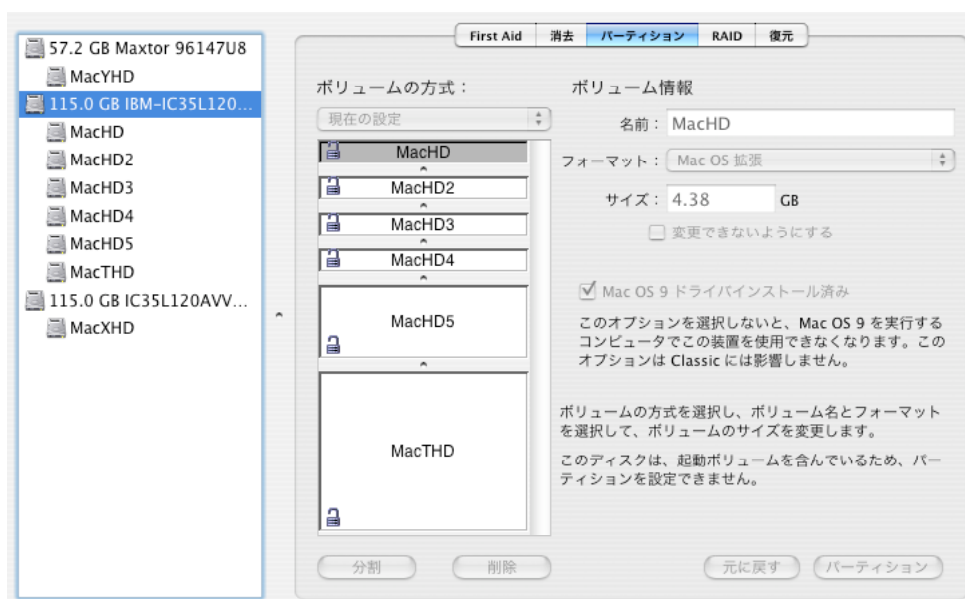
使用方法

まずはバックアップから

Active Backup を使用する前に、ハードディスクの適切なパーティショニングが必要です。まず、皆さんの大切なデータをバックアップして下さい。

パーティションを切る

ハードディスクのパーティションを切るには、Apple 社の「ディスクユーティリティ」を使用します。Mac OS X インストーラ CD を起動し、言語選択ダイアログ内の「主に日本語を使用する」をクリックしてから、「Installer」メニューの「ディスクユーティリティを開く...」を選択します。



「ディスクユーティリティ」は一度パーティションを切るとパーティション数とサイズの変更は再度初期化しない限りできませんので、適切なパーティション数とサイズを考えてから切るようにして下さい。

ディスクユーティリティの固有の問題で、同じサイズのパーティションを複数個切っても、全てが同じサイズにならないことがありますので、この場合は再度切り直して下さい。DVD にバックアップする場合は 4.5GB を指定します。パーティションを切った後は 4.38GB と表示されます。

DVD にバックアップせずに、もう一台のハードディスクにバックアップする場合は、4.5GB にこだわる必要はありません。適切なサイズを決定してパーティションを切って下さい。

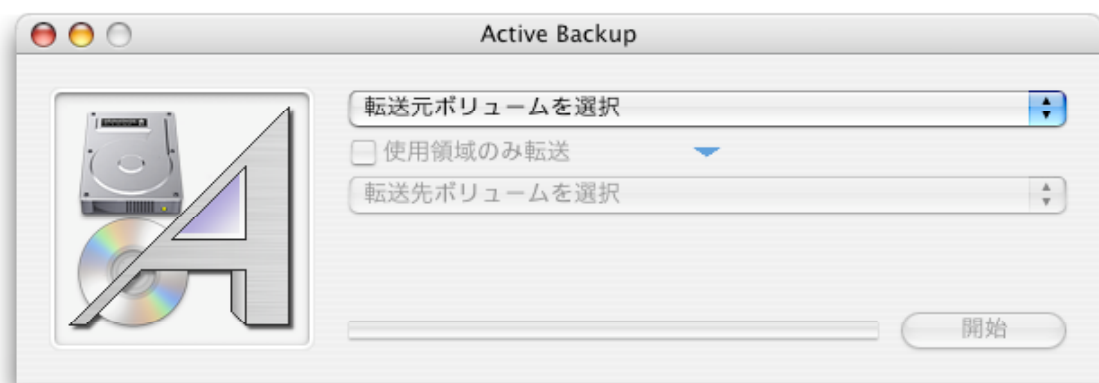
同じサイズのパーティションを複数個作っておくと、パーティション間転送ができたり、一世代前のディスクイメージをもう一つのパーティションにリストアできますので、とても便利です。

パーティションサイズが大きければ大きいほどバックアップ・リストアに時間がかかります。小さすぎると、起動ボリュームに依存するソフトや、スワップファイルの問題に悩まされます。

パーティション設定後、Mac OS X をインストールします。

Active Backup を起動する

Active Backup を起動すると、以下のウィンドウが表示されます。



転送元ボリュームから 転送先ボリュームにコピーします。ポップアップメニューからハードディスクボリュームもしくはディスクイメージファイルを指定します。転送元と転送先のボリュームサイズは同じでなければいけません。



転送元ポップアップメニューの「イメージファイルを選択...」で Active Backup のディスクイメージファイルを選択します。

転送先ポップアップメニューの「イメージファイルを指定...」で Active Backup のディスクイメージファイルを指定します。

転送元のディスクイメージファイル選択は、ファイルをダブルクリックしたりドラッグアンドドロップでも指定可能です。

ディスクイメージファイルの拡張子は .dmg でなければいけません。
転送可能なボリュームは HFS+のみです。

転送先がハードディスクボリュームの場合、「ディスクユーティリティ」で消去（初期化）するか、すべてのファイル・フォルダをごみ箱に移動しておく必要があります。

間違ってハードディスクを初期化してしまうことを防止するため、Active Backup は初期化機能を提供していません。重要なボリュームには、色をつけておくと良いでしょう。



コピーの組み合わせは4通りあります。

1. ハードディスクボリュームから ハードディスクボリュームへ
2. ハードディスクボリュームから ディスクイメージファイルへ
3. ディスクイメージファイルから ハードディスクボリュームへ
4. ディスクイメージファイルから ディスクイメージファイルへ

転送元と転送先のボリュームが同一ハードディスク内の場合、2台のハードディスク間のコピーより遅くなります。まったくマウントできなくなるようなハードディスククラッシュを考慮すると、バックアップは異なるハードディスクへ保存した方が安全です。

転送時間やディスクイメージファイルのサイズを減らしたい場合は、「使用領域のみ転送」チェックアイテムをオンにします。(Mac OS X 10.2 以上)

使用領域のみ転送

このチェックアイテムにオンにした場合、作成されたディスクイメージファイルは Mac OS 9 用フリーウェアの ASLBackup では使用できないフォーマットになりますので、ご注意ください。また、ドライバのオーバヘッドで約20%ほどスピードが落ちますので、ハードディスクの使用領域が大きい場合は、全てをバックアップした方が速い事があります。

コピーを開始するには、右下の「開始」ボタンをクリックします。コピー中は「開始」ボタンは「中止」ボタンに変わります。



コピーをキャンセルしたい場合は、「中止」ボタンをクリックします。転送先ボリュームは、ジャーナリングオフの HFS+ フォーマットで初期化されます。

1. ハードディスクボリュームからハードディスクボリュームへ



上記の例は

MacHD3 ボリュームから
MacHD4 ボリュームへの

コピーです。

プログレスバーの上部には、左から「転送バイト数」、「転送スピード」、「経過時間」、「残り時間」、「トータル時間」が表示されます。

転送先のボリューム名（上記の場合 MacHD4）は、保持されます。

起動ボリュームや使用中のボリュームはアンマウントできないため、コピー終了後、転送先ボリュームを自動的にチェックします。



転送元がアンマウントできなかったボリュームのコピー中は、他のアプリケーションを使わないで下さい。できる限り、アンマウントしてコピーして下さい。

転送を完了すると、「転送バイト数」、「転送スピード」、「トータル時間」が表示されます。



2. ハードディスクボリュームからディスクイメージファイルへ



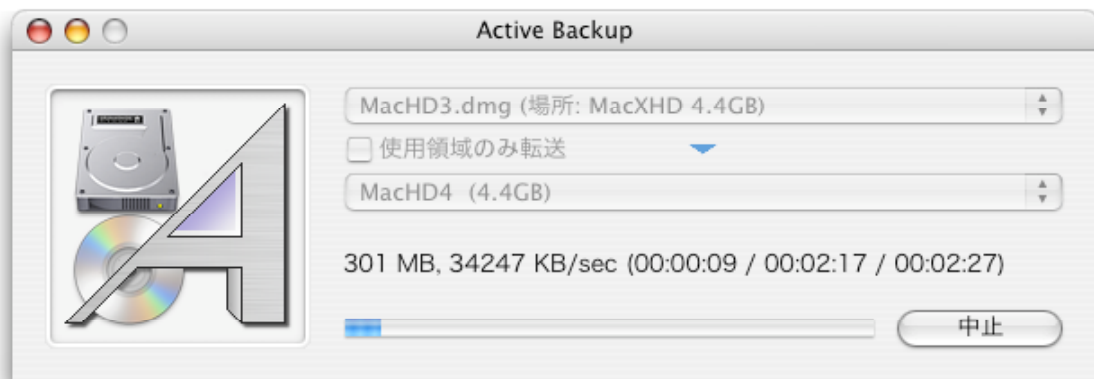
上記の例は

MacHD3 ボリュームから

MacXHD 上のディスクイメージファイルへの

コピーです。

3. ディスクイメージファイルからハードディスクボリュームへ

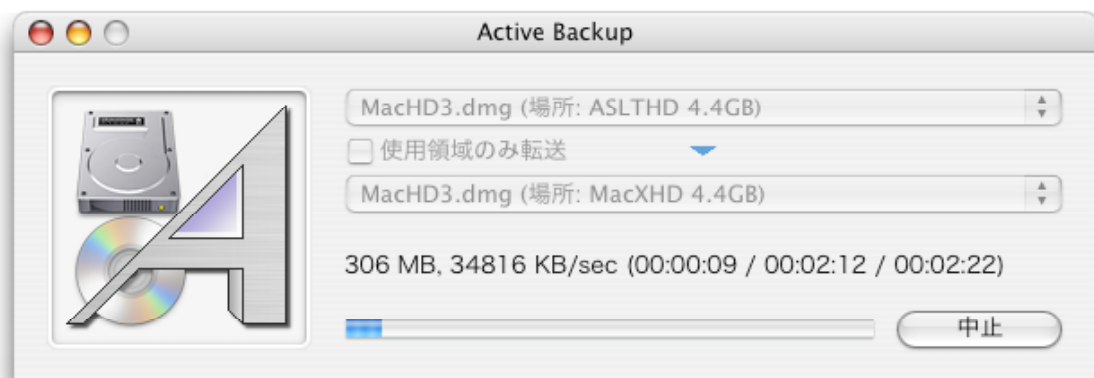


上記の例は

MacXHD 上のディスクイメージファイルから
MacHD4 ボリュームへの
コピーです。

転送先のボリューム名は、ディスクイメージのボリューム名に変更されます。

4. ディスクイメージファイルからディスクイメージファイルへ

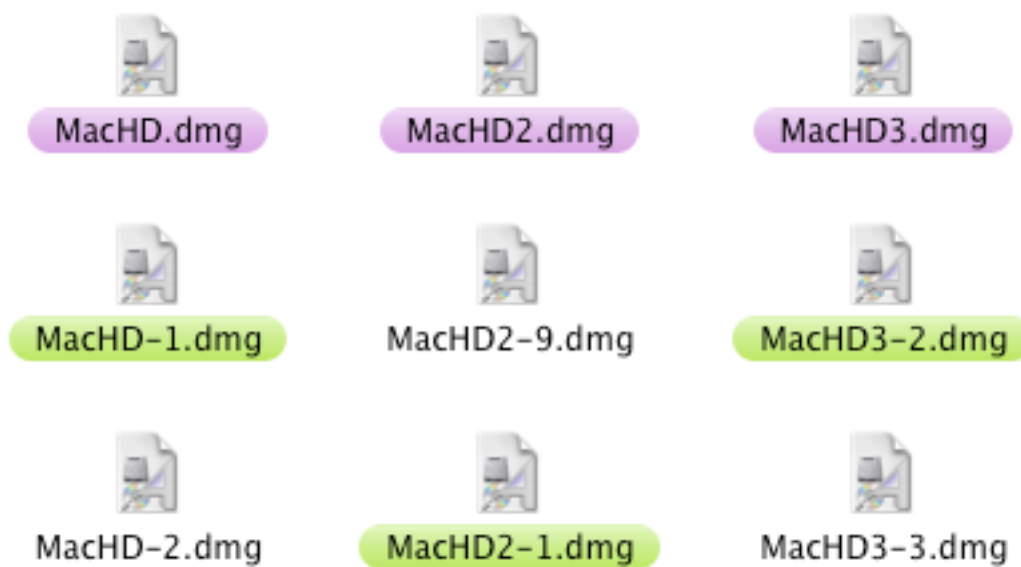


上記の例は

MacTHD 上のディスクイメージファイルから
MacXHD 上のディスクイメージファイルへの
コピーです。

ディスクイメージファイル

以下は MacXHD バックアップハードディスク内に保存されたディスクイメージファイルです。



私の場合、-1 から-9 までサイクリックに保存しています。大切なボリュームで頻繁にアップデートしている場合はディスクイメージファイルを多めに、アプリケーション等の保存用は少なめで良いでしょう。

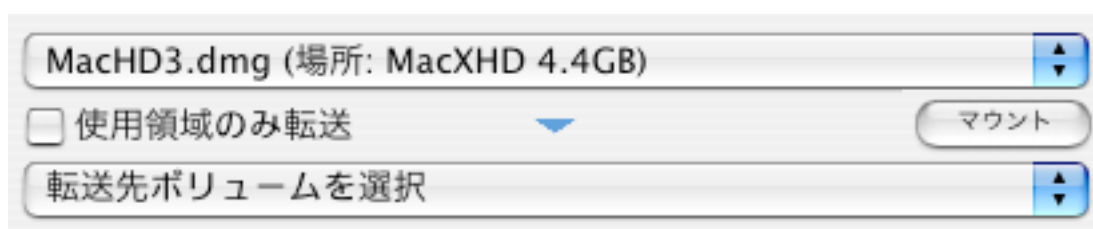
毎週保存すれば4個のバックアップファイルで1ヶ月間のデータを保存できます。もし運悪くハードディスクがクラッシュしても、最長1週間前のデータをリストアできます。

物理的にハードディスクがクラッシュしなくても、「ディスクユーティリティ」や「Norton Disk Doctor」等が「ハードディスク内が論理的におかしい」と報告してくることもあります。重症の場合は、最後にバックアップした日付以降の更新ファイルを探し、それらをバックアップしてからリストアします。

ディスクイメージファイルのマウント

1. Active Backup

ディスクイメージファイルをダブルクリックして Active Backup を起動すると、転送元ボリュームポップアップメニューの右下に「マウント」ボタンが表示されますので、これをクリックしてマウントします。

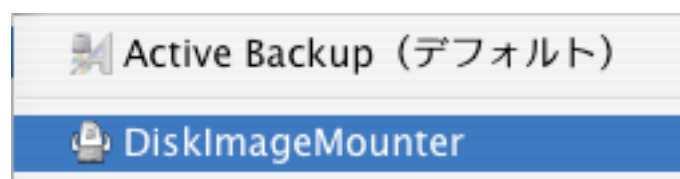


2. DiskImageMounter

コントロールキーを押しながらディスクイメージファイルをマウスでクリックすると、ポップアップメニューが表示されます。



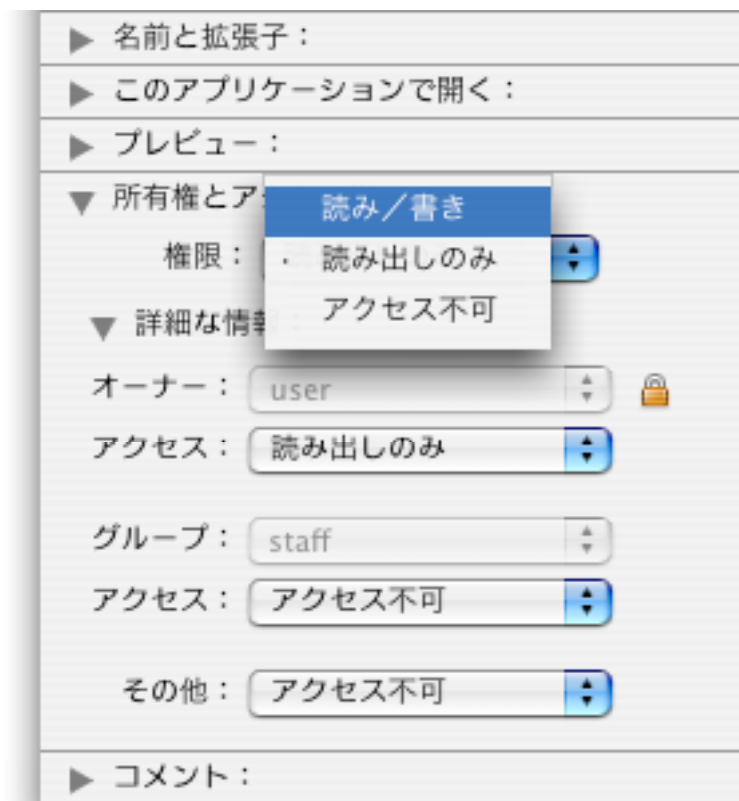
ポップアップメニュー 2 番目の「このアプリケーションで開く」を選択すると、階層ポップアップメニューが表示されますので、「DiskImageMounter」を選択してマウントします。



ディスクイメージファイルのアクセス権

転送先に作成されたディスクイメージファイルのアクセス権は、「読み出しのみ」に設定されます。これは「書き込み不可」でマウントするためです。

「書き込み可」でマウントしたい場合は、ディスクイメージファイルをマウスでクリックして、Finder の「ファイル」メニューの「情報を見る」を選択します。以下のダイアログが表示されますので、「権限」ポップアップメニューを「読み出しのみ」から「読み／書き」に変更して、マウントして下さい。



システム起動ボリュームのスリム化

安価な DVD メディアにバックアップできる 4.5GB のパーティションサイズは有用ですが、いくつかの制限が伴います。

メモリの少ない機種では、`/var/vm` に複数のスワップファイルを作成し、データの一時退避用として使用されますので、アプリケーションによっては 4.5GB のパーティションサイズでは足りなくなることがあります。

また、一部のアプリケーションは起動ボリューム以外にインストールできないものがあります。この場合、起動ボリュームに十分な空き容量を作るか、他の空き容量の十分な起動ボリュームにインストールする必要があります。

Mac OS X 10.3 を標準インストールすると 2.8GB / 144,255 ファイルが起動ボリュームにインストールされます。4.5GB のパーティションサイズの場合、空き容量は 1.6GB です。通常 1GB 程度の空き容量があれば問題ありませんが、もっと空き容量を増やしたい場合は、以下の方法で対処できます。

`/Library/Documentation` の必要のないドキュメント・ヘルプファイルを削除することで、最大 167MB 空き容量を増やせます。「ヘルプ」メニューを選択した場合、何も表示されなくなります。「ヘルプ」メニューを使用されない方が対象です。

`/Library/Printers` の必要のないプリンタドライバを削除することで、最大 627MB 空き容量を増やせます。プリンタを使用しなかったり、セカンドマシンで印刷できる方が対象です。

`/Library/Fonts` の必要のないフォントファイルを削除することで、最大 151MB の空き容量を増やせます。使用頻度の高いフォントは `/System/Library/Fonts`, にあり、`/Library/Fonts` は使用頻度の低いフォントが含まれます。システムが `Skia.dfont` というフォントを使用しているので、このフォントは削除しないで下さい。

Software Update でシステムを更新した後に Symantec 社の Speed Disk 等でデフラグメントすると、ハードディスクアクセスを高速化できます。

付録 – 便利なユーティリティ紹介

1. iDefrag – ファイル断片化解消ユーティリティ

ハードディスク内が断片化していると、Active Backup の「使用領域のみ転送」オプション使用時に時間がかかります。断片化を解消するユーティリティ iDefrag という便利なソフトウェアがあります。

iDefrag - Mac OS X 用高機能デフラグユーティリティ

http://www.netjapan.co.jp/r/product_mac/item002/

iDefrag は商品で、Vector からオンライン購入可能です。

Vector - iDefrag

http://shop.vector.co.jp/service/servlet/Catalogue.Detail.Top?ITEM_NO=SR063621

2. Monolingual – 不要言語リソース削除ツール

Mac OS X は多各国語をサポートしていますが、日本語と英語しか使用していない人が大半でしょう。不要な言語リソースを削除できる Monolingual というオープンソース・フリーウェアがあります。

<http://monolingual.sourceforge.net/>

このツールを使用する事で、アプリケーションやライブラリ内の不要な言語リソース等を削除できます。DVD サイズのボリュームの場合には欠かせないツールです。

今後のバージョンアップ予定項目

- ・ バッチ・キューイングのサポート
- ・ ネットワーク経由のバックアップ・リストアのサポート
- ・ コマンドライン版のサポート
- ・ 暗号化・圧縮のサポート

サポート窓口

インターネット窓口

最新情報やライセンスキー購入方法は <http://www.activeopen.co.jp> をご覧下さい。

セールスに関するご質問や、ユーザサポート、キーウェア版の CD-ROM 等への添付については、電子メールで activeopen@mac.com 山田宛に、もしくはお電話 (03-5337-7665) でご相談下さい。

リリースノート

1.4 11/26/2006

「使用領域のみ転送」オプション使用時、転送元 HD 使用量がイメージの転送先 HD 空き容量より小さくてもコピーできないバグを修正
iDefrag / Monolingual の紹介を追加（付録を参照）

1.3 6/29/2006

インテルプラットフォームに対応
ログ表示機能を追加

1.2 6/5/2004

マウント機能を追加
「使用領域のみ転送」チェックアイテムを追加 (Mac OS X 10.2 以上)

ディスクイメージのファイル名の拡張子を .img から .dmg に変更しましたので、ファイル名を変更して下さい。サイズが 8GB を超える .img は .dmg に変更する事で DiskImageMounter でイメージをマウントできるようになります。

1.1 4/5/2004

Mac OS X 非日本語環境での認証問題を修正

1.0 3/24/2004

イニシャルリリース